

12/17 2000



戦争は「先にやられた」から始まる

中村文則さん

芥川賞作家

おじ戯作家の中村文蔵さん(45)は今月13日、国^の外交・防衛政策の基本方針「国家安全保障戦略(NSS)」を改定する政府案が明らかになると、「公報サイトに掲載された」と書いた。

「相手が攻撃に着手したら攻撃でもうつし」 もり、僕が書いた「反帝國」の頭のまへ物ですね。。。」

2017年5月出版した小説「E帝国」が、いよいよ日本で出版される。朝、田が読むと戦争が始まっていた。

架空の国を舞台とした小説だが、中村さんは「当時の日本から予測される、未來の破滅を描いた」という。冒頭の場面は、相手国が核ミサイルの発射準備をしていると察知し、それを阻止するために戦争を始めた、といふのだ。「まさに政變が今回

保有を明記した「敵基地攻撃『先制攻撃』によるものに於ける能力」の」と、續いたりと、政府がやううとしていることが完全に一致して驚いたし、嫌になる。中村さんは、危機感を抱く。「軍事面で米国に依存する日本は」それで、米國の指揮が何であれ、他国攻撃を示ができないと断れた。それが「できない」と断つたときが「どうなる」という問題が変わつてしまひ」

「無関心が加速し、日本の民主主義は機能しなくなつてした攻撃が、逆に他国から攻撃を受ける危機となりか、とも指摘。「戦争」は「先にやられた」という口実から始まつるもの。日本の敵基地攻撃をなす、「かくわが日本ぐる本格的な攻撃が始まるだらけ」「R帝国」の執筆を始める1年ほど前、集団的自衛権の行使の道を開く安全保障関連法が成立したが、国内の各地で反対行進が起きた。しかし今回、反対の声が大きくなればひとつながつてしまふようだと思ふ。

一無関心が加速し、日本の民主主義は機能しなくなつてしまふ。いつでも政権交代が起きうると思わせるような状況になるより、投票行動を通じて政治に懸念感を与えるしかない」（小松次郎）